

第140期第3四半期報告

株主通信

平成19年4月1日～平成19年12月31日

3rd Quarter Business Report



K "K" LINE
川崎汽船株式会社®

証券コード：9107

Contents

02

株主の皆さまへ

03

営業の概況

業績概況・事業別概況

07

TOPICS

オフショア支援船事業について

09

特集

地球環境をまもるために

11

NEWS FLASH

自然災害復興支援

シェニエールプロジェクト向け145,000m³型LNG船
"CELESTINE RIVER"の竣工

06

P R の 頁

川崎近海汽船株式会社

13

ケイライントラベル株式会社

14

株式会社ダイトーコーポレーション



代表取締役 社長執行役員

前川 弘幸

株主の皆さまへ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第140期第3四半期報告書（平成19年4月1日から12月31日）のお届けにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

当第3四半期決算（平成19年4月1日から12月31日まで）は、燃料油価格が高騰するなど費用の増加がありましたが、ドライバルク船市況が活況を呈したことで、コンテナ船の運賃水準が大幅に改善するなど、前年同期比大幅な増収増益となり、第3四半期決算としては単体、連結ともに、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益いずれも過去最高となりました。

第4四半期においては、コンテナ船は閑散期のため需要の減少が予想されますが、運賃水準は安定的に推移すると思われ、またドライバルク輸送の市況は総じて高値圏で推移すると見込んでいます。加えて自動車船は引き続き堅調な荷動きを背景に、また、エネルギー資源輸送は長期契約を核に、いずれも安定的な収益を確保できる見込みです。

年明け以降の急速な円高、燃料油価格の高値推移など厳しい環境にはありますが、通期の業績は、中間決算発表時予想数値の達成が可能と見込んでおります。

配当金につきましては、既に実施した中間配当12円に加え、期末配当1株当たり13円（年間配当金1株当たり25円。連結予想純利益の約2割に相当し、昨年度に対し7円増配）とさせていただきます。予定で。

グループ企業の役員・従業員一丸となって“K” LINE Vision 2008+のさらなる推進に尽力して参りますので、株主の皆さまには何卒一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

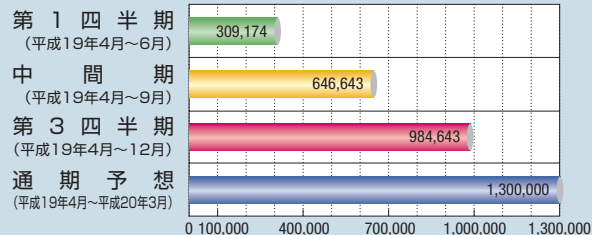
平成20年2月

営業の概況

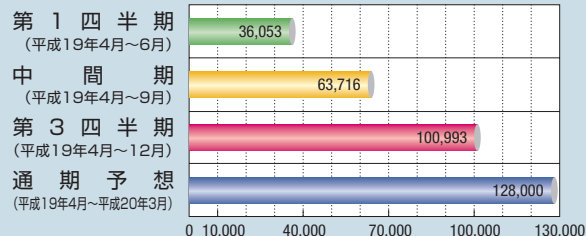
業績概況

(単位：百万円。単位未満切捨て)

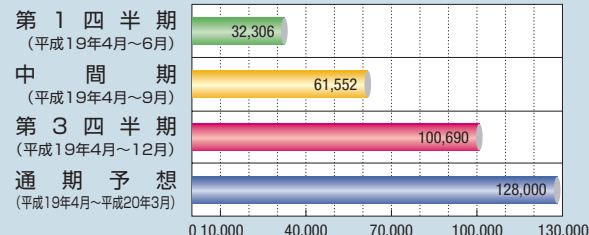
売上高



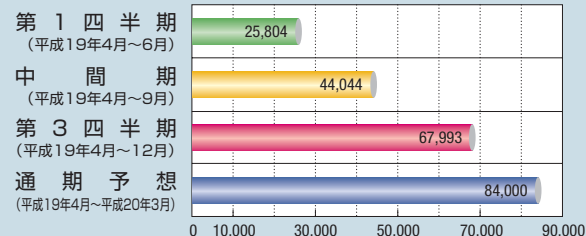
経常利益



営業利益



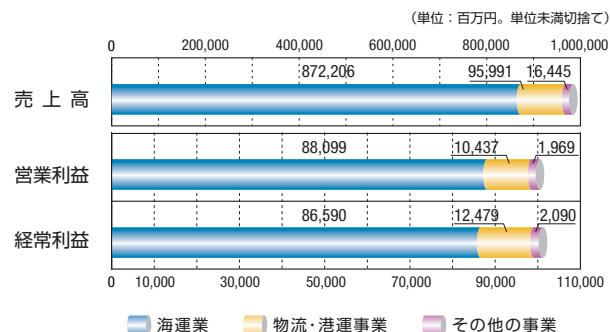
純利益



当第3四半期（平成19年4月1日から平成19年12月31日まで）において、米国サブプライムローン問題に端を発した夏以降の金融・資本市場の混乱や原油価格の高騰の影響が懸念される中、経済は国内外ともに緩やかな成長を見せました。米国では住宅投資に鈍化が見られたものの、雇用・所得環境の下支えにより国内消費は全体に堅調で、欧州各国の経済も好調に推移しました。アジア地域でも、特に欧州向け輸出が好調であったことに加え、中国や中近東諸国を中心とした国内消費の伸びと旺盛な設備投資により景気の拡大が続きました。わが国経済は新興国・欧州向け輸出に牽引された製造業を中心に回復傾向を示しました。

事業の種類別セグメントの業績概況は次のとおりです。

第3四半期 事業の種類別セグメント情報



■ 事業別概況

海 運 業

コンテナ船部門

北米航路では、サブプライムローン問題に起因する住宅関連貨物の不振によりアジア出し荷動きの拡大は鈍化しましたが、積高、運賃水準とも前年同期を上回ることができました。欧州航路では、欧州主要国向けの堅調な荷動きに加え、東欧・地中海向けも好調に推移し、8000TEU型コンテナ船の投入もあり、当社積高は前年同期比17%増と引き続き高い伸びとなり、また、運賃水準も前年同期を大幅に上回りました。アジア航路では輸出貨物が堅調に推移し、航路全体として積高を伸ばすことができました。南北航路は荷動き、運賃水準とも好調に推移し前年同期を上回りました。この結果、コンテナ船部門全体の業績は、前年同期比では増収増益となりましたが、燃料油価格の一段の高騰の影響もあり利益水準は、所期の見込みを下回りました。

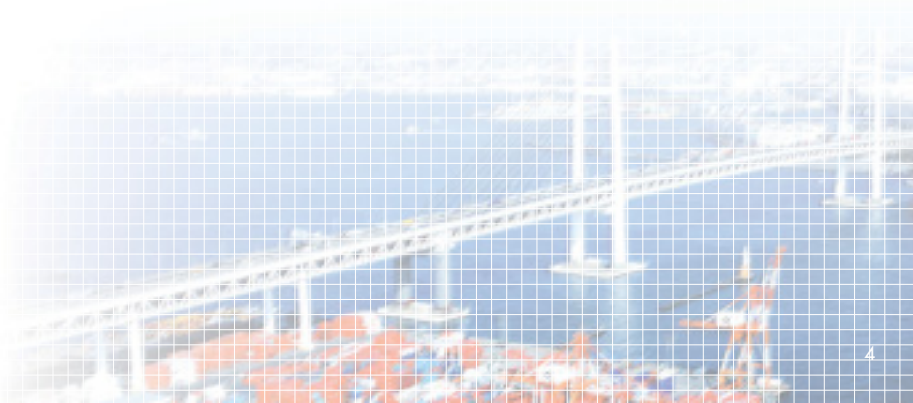


不定期専用船部門

ドライバルク輸送においては、大型船市況、中小型船市況とも当第3四半期を通じて前年同期を上回る水準で推移しました。当社は鉄鋼原料、電力炭、製紙原料輸送で長期契約により安定的な収益を確保する一方、中小型船を中心にスポット市況の高騰を享受するなど、ドライバルク輸送部門全体では前年同期比増収増益となりました。

自動車船においては、資源国である中南米カリブや中近東・アフリカ方面に加え、ユーロ高及び東欧・ロシアの好況を背景に欧州においても自動車販売は好調を維持し、船腹需要が供給を上回る状態が続きました。総輸送台数は、前年同期比約8%増加し、安定的な収益を確保しました。

当第3四半期の業績は、不定期専用船部門全体として前年同期比増収増益となりました。



営業の概況

■ 事業別概況

海 運 業

エネルギー資源輸送部門

LNG輸送においては、当第3四半期にシェニエールプロジェクト向け当社グループ単独運航の新造船1隻が竣工し、当社LNG船隊は合計で32隻となりました。また、旺盛なスポット需要に対応して短期傭船したLNG船1隻も順調に稼働し、安定的な収益を確保しました。

油槽船においては、燃料油価格が高騰を続ける中、運賃市況も軟化したために、前年同期を下回る結果となりました。

エネルギー資源輸送部門全体では、前年同期比増収減益となりました。



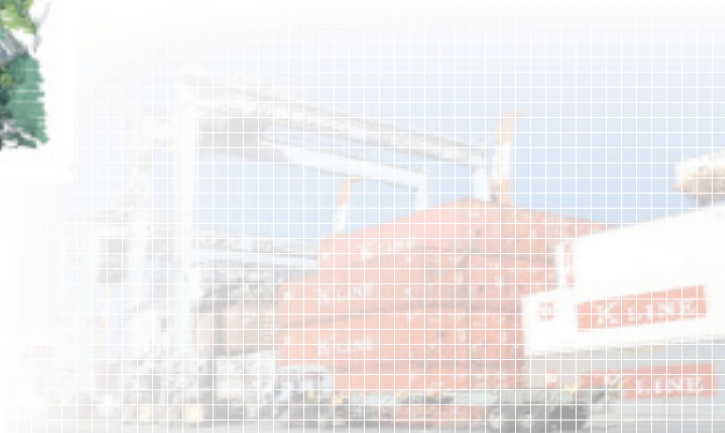
内航・フェリー部門

内航・フェリー部門では、大型新造石灰石専用船を10月に代替投入して国内の旺盛な原材料輸送需要に応え、ロールオン・ロールオフ船定期航路において投入船腹の入替えを行うなど、積極的な輸送量確保に取り組みました。八戸／苫小牧フェリー航路においては、1日4便体制のもとで顧客の利便性を高め輸送量を伸長することができました。



物 流 ・ 港 運 事 業

総合物流事業部門では、航空燃料高騰に伴う割増料金の影響などで航空フォワーディング市場の競争が一段と激化したものの、内外地における当社グループの連携を強化したことなどの効果もあり、堅調に取扱量を伸ばしました。





"K"LINE KINKAI

生乳をデイリー配送、

ほくれん丸・第二ほくれん丸 釧路⇌日立



ほくれん丸

産業と暮らしを支える海の大動脈。

旅客フェリー 苫小牧⇌八戸



1日4隻運航

- シルバーQueen
- ペ が
- ペ に り あ
- フェリーはちのへ

■ 運航スケジュール

八戸発	苫小牧着	苫小牧発	八戸着
08:45	16:00	21:15	翌日 04:45
13:00	22:00	24:00	翌日 07:30
17:30	翌日 01:30	05:00	13:30
22:00	翌日 07:00	09:15	18:15



シルバーQueen

川崎近海汽船株式会社

KAWASAKI KINKAI KISEN KAISHA, LTD.

東京都千代田区霞が関1丁目4番2号

<http://www.kawakin.co.jp>

オフショア支援船事業について

当社は、ノルウェーの船舶投資会社C.H.Sørensen Management ASと共同にて、船舶保有運航会社「K LINE OFFSHORE AS」を設立しました。今後、同社は堅調な需要が見込まれるオフショア支援船ビジネス分野において独自の事業を推進していきます。

K LINE OFFSHORE AS社は、大型アンカーハンドリング・タグサプライ船（AHTS）2隻と大型プラットフォーム・サプライ船（PSV）4隻の合計6隻を、ノルウェーの造船所Aker（アーカー）Yardに新造発注済みであり、この6隻は2010年10月から2011年7月にかけて順次竣工する予定です。



アンカーハンドリング・タグサプライ船（AHTS）

AHTS

全	長	約95メートル(58-90メートル)
型	幅	約24メートル
型	深	約9.8メートル
載	貨 重 量	約4,800トン
船	速	約17ノット
馬	力	34,000 (4,000-28,000)
居	住 区	70名

() 従来型

オフショア支援船とは、洋上の石油生産プラットフォームや掘削リグ等への物資輸送や基地曳航・建設サポート等に従事する船舶を言い、今般発注したAHTSは主に石油生産プラットフォームの設置や移動時の投錨・揚錨・転錨作業、同設備への人員・物資の輸送に、PSVはリグへの生産資材や燃料、作業従事者への飲料・食糧輸送等に従事します。



プラットフォーム・サプライ船 (PSV)

PSV

全	長	約94メートル (55-90メートル)
型	幅	約20メートル
型	深	約8メートル
載 貨 重 量		約5,100トン (800-5,000トン)
船	速	約16ノット
馬	力	11,400 (1,800-7,200)
居	住	区
		25名

() 従来型

発注船は従来船型よりひと回り大きな船型であり、厳しい海気象条件下でも所定位置にて船体姿勢を正確に保ち安全に作業できるよう、各種ハイテク機器を装備するとともに、クリーンデザインと称する環境に配慮した最新鋭の仕様を採用しています。原油価格の高騰を背景に、オフショアに於ける石油・天然ガス等の資源開発は大水深化・沖合化が進んでいくと予測され、厳しい気象条件下に於いても運航が可能で、かつ、曳航能力や積載能力の大きな船舶に対する需要は今後ますます堅調に推移していくと見込まれています。本船の船舶管理は、オフショア支援船の分野では世界のリーディングカンパニーであり、建造中の船舶を含め100隻以上の管理に携わっているノルウェーのOSM Group AS（以下、OSM社）へ委託します。

K LINE OFFSHORE AS社は、大型で最新鋭のオフショア支援船を保有し、OSM社の豊富なオフショア船の船舶管理経験と、当社のワールドワイドなネットワークやブランド力を活用し、原油や天然ガス等の海洋資源開発に関わる顧客の信頼を得ながら、競争力あるサービスを提供していきます。また、昨年参画した事業でありドイツに本拠を置く重量物輸送専業船社SALグループとのシナジー効果も期待され、海運及びその周辺分野における事業の多角化と安定収益体制の確立に向けて、新たな一歩を踏み出しました。

地球環境をまもるために

— 海の環境をまもることは、私たち海運会社の重大な責務の一つです —

海は私たちの活動のステージです。海は私たちに多くの恩恵を与えてくれます。この青い海をまもり続けるために、私たち海運会社にとって船舶からの貨物油や燃料油、化学物質等の流出事故を防ぐことも重要な責務です。そこで今回は、私たちが行っている漏油を防ぐためのさまざまな取り組みについてご紹介します。

貨物油の流出を防ぐために

船舶の衝突や座礁などにより、損傷した船体から貨物油が海に流出すると、深刻な海洋汚染を引き起こすことがあります。そうした事故により、船体の外板に万一穴があいても、貨物油が船外へ流出するのを防ぐために、タンカーの船殻が二重化（ダブルハル）され貨物油を積載するホールドが保護されている船舶を積極的に採用しています。当社では15隻のタンカーを運航していますが、そのうち14隻の船体が二重構造です。

国際条約では1996年以降に竣工するタンカーの船殻を二重化することが義務付けられて来ましたが、2015年には、船殻が一重構造（シングルハル）のタンカーでの輸送は全面的に禁止されます。また、C重油など一部の重質油においては、既にシングルハルで輸送することが禁止されています。

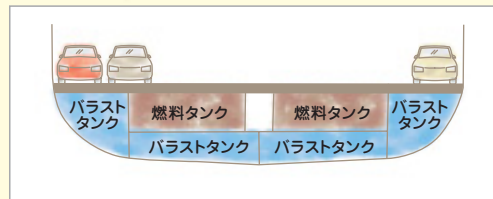


VLCC “YAMATOGAWA”

燃料油の流出を防ぐために

船外への油の流出は貨物油だけではなくありません。船舶の運航には燃料油が欠かせないため、燃料タンクの設置場所にも同様に配慮しています。2007年に建造した船舶のうち7隻の燃料タンクを船殻の内側に設置し二重構造としています。

燃料タンクの二重構造化



最新機器の導入

機関室内等のさまざまな機器や設備から潤滑油が船外に流出する可能性もあります。これまでは、潤滑油等を冷却するために船内に取り入れた海水で直接に熱交換をしていましたが、この方法では冷却管が破損した場合、潤滑油が冷却用の海水に混入して船外に流出するおそれがあります。そこで当社ではいち早く、海水で一定温度に保たれた清水を、閉鎖回路で循環させて潤滑油等を冷却する方式（セントラルクーリングシステム）を採用しました。また従来、船尾管（プロペラ軸の船体貫通部）からの海水の流入を防ぐために潤滑油が使用されていましたが、海水の流入や潤滑油の船外への流出を防ぐ加圧エアシール方式の装置に切り替えています。さらに、甲板上の係船装置についても、油圧式から電動モータ駆動式へと見直しています。その他、貨物油や燃料油の過積載による船外へのオーバーフローを防止するために、精度の高い液面計や高位液面警報装置を装備したり、溢出防止用の配管やタンクを設置するなど、あらゆる漏油のリスクに備えています。



最新機器を搭載した“HUMBER BRIDGE”

海洋環境をまもるためには、こうした漏油のリスクに備えるとともに、安全運航を徹底することが何よりも大事です。船舶管理体制を強化し、船員教育を充実させる、これらを一つひとつ着実に実行し、私たちはこれからも環境保全に全力で取り組んでいきます。



自然災害復興支援

国内や海外で不幸にして発生した大規模な地震や台風などの自然災害による被害を受けた地域の復興を支援するため、当社では災害援助義援金の寄付や災害援助物資の輸送協力などを積極的に行っています。

2007年7月に新潟県中越地方沖を震源地として大規模な地震（新潟県中越沖地震）が発生しましたが、当社ではこの地震で被害に遭われた方々に対し、日本赤十字社を通じて災害援助義援金として150万円を寄付しました。

同年8月には南米ペルーで大規模な地震（ペルー地震）が発生しました。この災害援助のために、在日ペルー大使館と国内の慈善団体が集めた衣服、医薬品、医療機器などの復興支援物資（20フィートコンテナ換算で5本）を、当社が運航する船舶で無償輸送協力を行い被災地に届けました。加えて、日本ペルー協会が募集する義援金に当社として50万円を寄付しました。この義援金は、12月中旬に同協会から在日ペルー大使に直接手渡されました。また、2007年11月にはバングラデシュで猛烈な暴風雨を伴う大型サイクロン「シドル」がベンガル湾沿岸部を直撃し、大きな被害が発生しました。当社では被災地の復興を支援するため、同国首相官邸が開設する救援基金に災害援助義援金として300万円を寄付しました。



シェニエールプロジェクト向け145,000m³型LNG船 "CELESTINE RIVER"の竣工

2007年12月14日に川崎造船坂出工場において145,000 m³モス型LNG船 "CELESTINE RIVER" (全長: 289.7m 全幅: 49.0m 深さ: 27.0m) が竣工しました。本船の運航・管理は、当社グループのロンドンを拠点とする "K" Line LNG Shipping (UK) Limitedが行いますが、同社としては4隻目の船舶管理船となります。また、当社グループが参画する32隻目のLNG船となります。本船は、竣工と同時にシェニエールエナジー社 (AMEX上場の米エネルギー会社) グループとの最長10年間の傭船契約に投入され、大西洋水域での当社LNG船事業展開の核となります。



CELESTINE RIVER



米国メキシコ湾岸に建設中のシェニエール・サビンパスLNG受入基地

We promise your comfortable world trip.✈

ケイライントラベル株式会社

- 全世界へ出張をトータルにバックアップ
- 日本でシェアトップクラスのキルトツアー
- ホームステイや世界のイベントへの渡航手配

Business Trip Consulting

◆ビジネストラベル・出張関連
業務をトータルにサポート

Group Tour etc.

- ◆キルトツアー
- ◆中国ビジネスツアー
- ◆広告業界関連ツアー
- ◆ホームステイ

System Solution

◆ビジネストラベル/
システムソリューション



K "K" LINE TRAVEL
ケイライントラベル 株式会社

本社・東京旅客部 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-2-10虎の門桜田通ビル2階
神戸営業所 〒650-0024 神戸市中央区海岸通八番 神港ビル1F
大阪営業所 〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-2-11 大同生命南館2階
岐阜営業所 〒509-0147 岐阜県各務原市鷺沼川崎町2丁目58番地 カワサキライフ岐阜第二ビル
名古屋営業所 〒454-0011 名古屋市中川区山王3-17-7

TEL:03-3506-3466
TEL:078-391-1701
TEL:06-6443-8777
TEL:058-382-4571
TEL:052-322-5440

<http://www.klinetravel.co.jp/>

Daito 新時代へ物と心のハーモニー
ダイトーコーポレーション



本社ビル



大井コンテナターミナル

物流を通じて豊かで平和な生活と社会づくりに貢献します



作業をするタグ“ほくと”

《事業内容》

港湾運送事業・コンテナ
ターミナルオペレーター
海運代理店業・倉庫業・
港湾タグ事業・通関業・
海上防災事業・産業廃棄
物収集、運搬及び処理業



大井物流センター

株式会社ダイトーコーポレーション

本社 東京都港区芝浦2-1-13
支店 横浜・千葉

TEL : 03-3452-6271
<http://www.daitocorp.co.jp>



〒105-8421 東京都港区西新橋一丁目2番9号
(日比谷セントラルビル)

TEL：03-3595-5061

URL：http://www.kline.co.jp

【単元未満株式をお持ちの株主さまへ】

当社は、1単元（1,000株）に満たない株式（単元未満株式）をお持ちの株主の皆さまの便宜をはかるため、買取制度（ご売却）に加え、「単元未満株式の買増制度（ご購入）」を実施しておりますので、ご利用ください。お手続きなどの詳細に関しましては、株主名簿管理人にご照会くださいますようお願い申し上げます。なお、保管振替制度をご利用の株主さまは、お取引のある証券会社までお問い合わせください。

株主名簿管理人 事務取扱所

（〒168-0063）

東京都杉並区和泉二丁目8番4号

中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

☎ 0120-78-2031（9：00～17：00）

IRメール配信サービスのご案内

当社では、情報提供をさらに充実させるため「IRメール配信サービス」を行っています。プレスリリース、決算発表日のお知らせ、決算概要などを自動的に電子メールでお届けします。ぜひご利用ください。

サービスのご登録は <https://www.kline.co.jp/sec/mlist/index.asp>

（注）この株主通信に記載されている将来の業績等に関する見通しについては、リスクや不確定な要因を含んでおり、実際の業績はさまざまな要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。



本誌は100%再生紙を使用しています。
当社は未来の子供たちのために、資源の再利用と環境保全に取り組んでいます。